

京丹波産アベマキ使用「負けなイス」

カシノナガキクイムシ被害にも負けない強い木！
どっしりした重量感と安定したすわり心地



材の一部にみられるピンホール(虫食い跡)は、
樹木が虫害と戦って生き残った証です。



アベマキ (ブナ科)
ドングリのなる木のひとつ。厚い樹皮が特徴で、かつてはコルクとして利用されてきた。木材は堅くて重い、薪としての利用が中心。京丹波町内に比較的多く自生している。

令和6年度 京都府立林業大学校 森林・林業科 森林公共人材専攻 卒業研究 TREE LOVE～広葉樹の循環利用を目指して～

京都府立林業大学校 森林公共人材専攻では、2年間の総仕上げとして「地域課題解決型教育プログラム」により、卒業研究において地域や森林・林業の課題解決に向けた実践的な提案に取り組んでいます。

令和6年度は、京丹波町から「京丹波町の森林資源の循環利用に向けた取組の提案」との課題をいただき、12期生の学生2名が提案に向けて取り組みました。

学生らは、町内での利用が少ない広葉樹に着目し、グループワークや実態調査を進めました。森林組合(川上)、製材所(川中)、木工店(川下)への聞き取りから、広葉樹活用の考え方や情報のミスマッチに気づき、SNSのグループ機能による情報共有などで川上から川下をつなぐサプライチェーンを構築し、町産広葉樹活用の新たな流れをつくる提案をまとめました。

「負けなイス」は、プロジェクトの試運転として町内の製材所と木工店の協力を得て、実際に地域の広葉樹(アベマキ)で制作していただいたものです。学生のアイデアが形になり、提案内容の実現性に手ごたえを得ることができました。

京丹波町への成果報告会(令和7年1月28日、京丹波町役場)では、山森副町長はじめ各担当職員の皆様へ提案内容を発表し、「SNSの活用は斬新な発想」「ストーリー性のある商品は大切」といった御意見をいただきました。

地域課題解決型教育プログラム

- ① クライアントからの課題提起
- ② チームで提案を練り上げる
- ③ 「試運転」で実現可能性を実証

「負けなイス」は、京林大のほか京丹波町役場に置いていただく予定です。ぜひ一度、腰かけてみてください！

